

IEEE SMC 2018 参加報告

橋田 修一

(広島市立大学大学院 情報科学研究科 博士前期課程1年)

1. はじめに

2018年10月7日～10日に、IEEE System, Man, & Cybernetics Society(以下、SMC)主催の国際会議 SMC2018 が宮崎県で行われた。この会議に参加し、口頭発表を行った後、10月10日～11日に開かれた日台合同の若手研究者交流会 (Post-event for Young Researchers) に参加したので、その報告を行う。



SMC2018 の開催地

2. IEEE SMC 2018

今回の SMC2018 は宮崎県のフェニックス・シーガイア・リゾートで開催された。会議ではオーラルだけでなく、ポスターセッションやチュートリアルが開かれ、数多くの発表が行われた。また、83のスペシャルセッションで構成され、700以上の発表があった。

第2日目の午前に開かれた「Computational Intelligence for Learning and Knowledge Acquisition」というセッションで口頭発表を行った。発表内容は「Classifying sightseeing tweet using convolutional neural networks with multi-channel distributed representation」と題して、観光地に関連する意見や感想を含んだツイートを抽出し観光地の改善点やPR点を



口頭発表

発見する手法の提案を行った[1]。今回は、観光地の名前でキーワード検索されたツイートに対して、意見を含むか、含まないかの分類を行う処理部分に深層学習を活用した手法について発表を行った。

3. Post-event for Young researchers

SMC2018 では、会議が終わった後、日台合同で開かれた交流会に参加した。この交流会では、日本と台湾の若手研究者を集め、交流を図るために開かれた。日本 (Japan chapter + Hiroshima chapter) から 9 人、台湾から 7 人が参加し、SMC Hiroshima chapter からは私を含め二人の学生が参加した。

交流会は二日に分けられ、初日は宮崎市内の飲食店で行われ、交流会の参加者たちの自己紹介やそれぞれの国の特徴や特産品について、または、それぞれの研究室での様子や今後の進路について話し合った。

二日目は、宮崎市民プラザの会議室でグループディスカッションやチュートリアルが行われた。グループディスカッションでは 4 つのグループに分かれて、それぞれのグループで日々の研究活動や進路、もしくは、近年の研究動向について様々な意見や経験を話し合うことができた。しかし、近年の研究について具体的な話がされたとき、知らなかったが多かったこともあり、今後は自身の研究分野だけでなく、幅広い知識や調査が必要であることを感じた。また、国内外の企業についても多くの議論があった。海外の企業の調査についても幅広く行っていきたいと感じた。

また、開催者の九州大学の高木先生によるチュートリアルでは、モデルの評価方法として扱われる分散分析について講演された。専門的な手法の説明だったが、今後の研究に役立てていこうと思った。また、チュートリアルでは、国際会議での発表に際して、気を付けるべき点などが挙げられた。今後の研究活動や外部発表に対して、とても有意義な情報を得ることができた。

4. さいごに

SMC2018 に参加し、研究についての口頭発表と台湾 Chapter との交流会に参加した。大会期間中は、口頭発表のほかに、さまざまな分野の研究についての発表を聞いた。主に、深層学習を用いて様々な問題に取り組んでいる研究について聴講し、近年の研究について知ることができた。また、交流会に参加し、海外の最近の動向や研究について聞き、今後の研究活動の方向性や課題を考えることができた。この交流会を通じて得られた経験は、今後の活動のモチベーションとなった。なお、SMC2018 と台湾との合同交流会に参加するにあたり、SMC Hiroshima Chapter による援助を受けた。ここに感謝の意を表す。

[1] S.Hashida, K.Tamura and T.Sakai, "Classifying sightseeing tweet using convolutional neural networks with multi-channel distributed representation", Proc. of IEEE SMC2018, pp.178–183, 2018.